

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋 賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



2018/05/22

どうだん亭の母屋は、陶磁器輸出出業を営んでいた浅井竹五郎氏の住宅の離れとして昭和7年に建てられた。岐阜県志保郡坂下町(現飛騨市)にあった志保守年(1723年)建築の合掌造民家を惣築したもので、惣築に際して3階建てを2階建てに改造し、山荘風の近代数寄屋建築に

満
天
星
亭

再構築されて
いる。
また、どうだん亭の離れと母屋東側の事務室部分(台所等、水廻り)は、昭和42年にどうだん亭を入手した大岩忠正氏が居宅とするために増築したものである。



2018/05/22



2018/05/22

増築に伴って造られた庭園は、謡曲「紅葉狩」をモチーフとした「幸福」の中で「鶴」と「亀」が群れ遊び

の様子が表示されている。

「KEMIA(イケア)はスウェーデンが発祥の大手家具チェーンだ。購入者は部品から組み立てる手間が要り、一見敬遠しそふがある。ところが作ったのが自分」の満足感から逆に値打ちを見いだすようになった。イケア効果と呼ばれる。多数の人命を預かる鉄道の世界では、自動化の推進により、事故の最大要因とされるヒューマンエラー(人間のミス)の回避を目指してきた。ところが自動化を進めれば、進めるほど手間や努力が不要になり、人の仕事は退屈なものとなる。「エラー」が常態化すると、システムを

管理する人間は慢心に陥り、緊急時に即応できない。そんな逆説を唱える専門家もある。

どうだん亭の母屋の一部が登録基準の「造形」規範に当てはまるものと認められ、国の登録有形文化財と認められた。

入口には京都下鴨神社の神紋「ツバメ」が青い紙で入達を覗かされている。
自然の中、人間の営



2018/05/22



2018/05/22